

教師像の変遷

——東京都内公立小學校の場合——

東邦大学医学部 田中義章

1) 目的

この数年来、社会の各分野に女性の社会的進出が、いちだしくみられる。教育界とくに初等教育の分野において女性教師の数は、戦前から多く、今日、もはや半数以上を占めるに至っている。

女性教師のほかより、管理職(校長)に就任するものも毎年増加の一途をたどるなかで、一般の女性教師の職業意識は社会情勢の変化に伴って、いかに変化をきたしているか、調査資料に基づいて、分析を試みる。

昭和44年調査から昭和59年調査資料を統合的に分析し、女性教師の当面している問題は何かを、を中心に検討を行う。

2) 分析項目

A) 年齢層別分析

B) 純系教員養成校出身者(旧女子師範・学芸大・教育学部)と併系教員養成校出身者(旧女校・検定・一般大学・短大など)別分析:

以上の(A)・(B)を柱に、就職動機・教職継続意向・管理職希望の有無・派用意識などについて検討を行う。

3) 調査実施要領

A) 調査方法

昭和44年・昭和54年・昭和59年とも「郵送法」

B) 調査対象者選定方法

調査年度の4月1日在職者のうちより無作為抽出法により選定した。
(東京都立学校教職員名簿を使用)

C) 調査票回収状況

	発送総数	回収数	%
昭和44年	600	224	37.3%
昭和54年	2000	565	28.3%
昭和59年	1000(男*)	278	27.8%
	(女性500 性別不明*)	139	27.8%

D) 財源

文部省科研費・研究室の研究費・私費。

※ 発表当日、調査資料を配布いたします。

※ 昭和44年の調査結果の一部は「社会学評論」85号・教育社会学研究「日本の教師」才28号に発表済みですので、参考下さい。